

5.2 白金地域活動

職員総括

白金地域活動は、2017年度からセクションとしての活動を再開した。3年生メンバーが多く、授業やいろいろな講座が入って来る時期でもあるため、春学期・秋学期それぞれ二つの活動を行うことにした。

春学期は、毎年ボランティアを送っている「ふれあい運動会」（白金小学校で開催）に、公募ではなく白金地域活動セクションメンバーが参加し、地域の方々と交流した。もう一つは NEC との協働プロジェクトで、「子どもの貧困」をテーマに公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表の今井氏の講演を NEC 職員とともに聴き、その後グループに分かれ意見交換会を行った。

仕事をしている人、学生それぞれの視点・考え方を学ぶことができ、双方にとって有意義な会となった。欲を言えば、意見交換会後の展開をどのようにするかまで考えられればよかったと思う。

秋学期は、当初より自分たちで企画から着手したいとの希望があったため、白金台児童館主催のワンパクまつり（10月目黒駅近くのどんぐり公園にて開催）に出店したい旨を児童館に交渉し、テント二つ分を任されることとなった。今年度は子どもに関する活動を目的にしてきたため、子ども向けゲーム2種（ペットボトルボウリング・魚釣り）を手作りし、景品としてバルーンアートを渡すことにした。まつり当日にブース内を円滑に回すには、多くのメンバーがバルーンアートを作れる方がよいとの判断から、夏休みには講師を招いてのバルーンアート講習会も行った。まつり当日は、他のセクションからの応援を得て、300名近くの子どもたちを手作りゲームで楽しませることができ、練習したバルーンアートも好評で、達成感を得られる活動となった。また、各セクションを越えた絆も生まれた。

もう一つ12月に行われた防災カフェまつりへの出店では、10月のまつりで使用した釣りゲームの「魚」を「防災グッズ」に変更し、防災に必要な物とそうでない物などを取り混ぜて作成した。ここでもバルーンアートを景品にしたため、子どもたちの人気を集めた。今回は単独ではなく、いくつかのセクションがそれぞれのブースを持ち活動した。

セクション活動再開1年目のため、手探り状態で始めたものもあるが、活動を重ねるごとにセクションとしての団結を感じられた。しかし、白金は上級生が多いことから、土曜日に開催されるイベントに資格取得講座（授業）等が重なり、活動できる人員を確保できない状況にも直面し、他セクションに動員をお願いした。これが、セクションを越えた交流にもつながり、協力の輪が広がった。

（職員 北野順子）

●2017年度「白金地域活動」の主な活動

日にち	内容（参加人数）
4/29（土）	白金小学校での地域運動会「ふれあい運動会」（10名、職員1名）
6/19（月）	NEC との意見交換会（11名、職員1名）
6/24（土）、6/25（日）	（公募プログラム）「スリランカフェスティバル」 （6/24：29名、6/25：30名）
9/17（日）	（公募プログラム）「目黒区民まつり（目黒さんま祭り）」（27名）
9/27（水）	専用ツイッター開設 @SrknvcStudent
10/7（土）、10/8（日）	（公募プログラム）「みなと区民まつり」（10/7：19名、10/8：18名）
10/14（土）	白金台児童館主催「ワンパクまつり」にブース出店（18名、職員1名）

12/23 (土)	「防災カフェまつり」(40名、職員2名) 横浜市民防災センターで横浜地域活動を中心に白金地域活動、MG パール、 防災士講座受講生がブース運営を実施
2/10 (土)	(公募プログラム) 港区高松地区青少年委員会主催「三浦半島いちご狩り」 (12名)

◇ふれあい運動会 (白金小学校での地域運動会)

目的	地域の方々と交流を図るため
場所	港区立白金小学校 グラウンド
活動内容	運動会の司会進行/運動会の補佐 (ラジオ体操・競技のデモンストレーション、競技具の準備など)
活動日時、 参加人数	2017年4月29日 (土) 9:30~12:30 10名、職員1名

実施概要

町のふれあいの輪を広げるために開催されている「ふれあい運動会」は今年、第33回目を迎えた。白金にキャンパスを構える明治学院大学も白金地域の一員として、地域交流を図るべきと考える。移り変わる時代のなかで、開催当時から今もなお続いている運動会の歴史を感じつつ、当日は、会場の準備から片づけまで行い、運動会終了後の懇親会で地域の方々との交流を深めた。



感想・活動を通して得た学び

白金地域活動が再始動して初めての活動であったため、メンバー同士活動が上手くいくか不安であった。しかし、地域の方々が優しく丁寧に接してくださった。そのため、徐々に緊張がほぐれ地域の方々だけでなく、自分たち自身も心から楽しむことができた。「ふれあい運動会」は子どもからお年寄りまで幅広い年代の方が参加していたため、多世代交流をすることができた。そして、地域の方々の笑顔がなによりの癒やしであり、活動を通して人々と楽しみを共感する喜びを感じることができた。

今後に向けて

「ふれあい運動会」は、学生が地域活動に参加する大きな一歩となった。そのため、この活動を来年も継続していき、この行事がより活発なものとなるように全力でサポートしていきたい。また、受け身の姿勢で参加するのではなく、自ら積極的に地域住民に声をかけ、地域の課題や問題を発見していくアウトリーチも必要である。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

◇NEC 意見交換会

目的	企業と協働して活動する
場所	日本電気株式会社（NEC）本社会議室
活動内容	子どもの貧困問題についての講演を聴き、何ができるかを NEC 社員と考える
活動日時、 参加人数	2017年6月19日（月） 11名、職員1名

実施概要

NEC 社員の方々と公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンの代表である今井氏による「子どもたちの教育・経済格差の現状」と題する講演を聴き、その講演を受け、自分たちに何ができるかについてワークショップを行った。学生、社員双方で意見を出し合い、それらを全体で共有し、理解を深めた。50名近くが参加した意見交換会は大盛況に終わった。



感想・活動を通して得た学び

白金地域活動のメンバー、NECの社員を混ぜてグループに分かれ、ワークショップを行った。よかった点として、日頃大学生同士の交流しか主に経験できないなか、企業の方と深いお話や意見交換ができ、企業の方が取り組んでいること、考えていることなど企業側の視点が得られ、新鮮な機会だった。一方で、事前学習会を行ったものの、当日積極的に発言できないといったことがあった。事前学習会における準備の大切さ、深いところまでつめることの重要性を感じた。

今後に向けて

企業側の深い視点が得られ、とても貴重な機会であった一方で、インプットで終わっており、アウトプットの機会がなく、今回の体験が生かしていないという改善点が出て、学内でのワークショップなどに生かせる機会を設けるなどの案が出た。事前学習会を行ったものの、一度だけではなく継続させるなど工夫して準備することの大切さを学んだ。この体験を通して、気づいたこと、反省点はたくさんあり、それをブラッシュアップし、伝えていくことで白金地域の活性化、そしてさらなる飛躍を誓いたい。

（学生メンバー 社会学部社会福祉学科）

◇ワンパクまつり

目的	白金台児童館を中心とする地域のお祭りにおいて、ブース出店をすることで地域連携を強化
場所	白金台どんぐり児童遊園（港区白金台5丁目）
活動内容	子ども向けブースの出店
活動日時、 参加人数	2017年10月14日（土）9:30～16:30 18名（内、学生メンバー14名）、職員1名

実施概要

白金台児童館主催で行われる「ワンパクまつり」で、子ども向け手作りブースを出店した。その制作のため、日本財団学生ボランティアセンターが行っている Gakuvo Style Fund 2017 の「ゆるぽ」に申請し、3 万円の協力金をいただいた。協力金を用い、ペットボトルボウリングと魚釣りブースを制作し、景品として子どもにあげるバルーンアートのバルーンも購入した。当日は、たくさん子どもたちに楽しんでもらい、地域交流の貴重な機会となった。



感想・活動を通して得た学び

この活動は皆が一致団結しないとできなかったものだと考える。最初は、なかなか活動に参加できないメンバーやこの活動とはまったく違うボランティアをしていたメンバーなどもおり、ブースの完成のイメージがつかめず制作には時間がかかった。しかし、次第に経験のあるメンバーはリーダーシップを取り、他のメンバーもさまざまな形で作業を行い、無事子どもたちに楽しんでもらうことのできるブースが完成した。さまざまな経験のあるメンバーたちだからこそ、成功ができたのだと感じる。

今後に向けて

今回は、初回ということもあり、子どもたち一人ひとりと関わる時間が少なかったので、長期休みを活用して、児童館で子どもとの交流を図るとともに、地域の方とのつながり作りのために、この活動以外にも、地域の方と共同で行う活動をしていけたらよいと考える。そのためにも、まずは自分たちで、白金周辺を歩いてみて、名前の通り白金地域活動として、よりよい活動をしていきたいと思う。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)